

## 1 市の概要

人口	161,094人
保護率	1.2%

## 2 支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当 (件) 一月当たり	9.9
プラン作成件数人口10万人当 (件) 一月当たり	4.0
就労支援対象者数人口10万人当 (件) 一月当たり	0.6
就労・増収率(%)	63.6

## 4 事業実績（H30年度）

小学生	中学生	高校生	計
被保護4人	被保護13人 生活困窮5人	被保護2人	被保護19人 生活困窮5人

## 5 事業実施のポイント

## 学習をツールとした居場所づくりの支援

●学習等支援の場であるが、教科の勉強に特化するのではなく、「子どもの心に火をつける」を合言葉に、子どもが生きる力を養い、自分の夢を自分自身で叶えることを応援する場と位置づけている。進路や学校生活の悩み、毎日の出来事などを安心して話せる場を提供し、協調性、コミュニケーション能力の向上と、夢や進路を考えるきっかけづくりを行う。

## 子どもの自尊感情・自己肯定感の尊重

●「学習」「生活」「友人関係」「部活動」等において自分を磨き、高めるための基本である学校で、友だちと関わったり、勉強したりする「がんばれる力」を身につけさせる。子ども一人一人の話をよく聴き、認めてあげて、楽しく継続して参加できるよう心がけ、子どもたちが達成感・成功を体験し自己肯定感(がんばれる力)に結びつくよう取り組む。

## 関係諸機関との連携強化

●子ども・保護者を中心に据えて、多方面からの支援体制を構築する。毎年度、校長会や教頭会等で事業説明や協力依頼を行うとともに、生活支援課、教育委員会、学校、児童養護施設、委託先、家庭・学習支援員が情報交換を行い、互いの支援に役立てる。

## 3 実施方法について

実施方法	委託（集合型）単年度随意契約・直営（訪問型）
事業費	8,530千円（平成30年度）
理由（委託）	○福祉の視点でのアイデア、技術力、経験等を生かして、学校等と連携した支援を実施することができる。 ○学生ボランティアの安定確保が重要で、ボランティア活動の振興にも実績を有している。
事業概要	○生活保護世帯と児童養護施設の中学生を主たる対象とする。 ○「貧困の連鎖」を断ち切ることを目標に、子どもの学習等支援事業を実施することで、子どもたちの居場所づくりや学習機会の提供、将来へのきっかけづくりを行い、本人が希望する高校に進学できるよう支援。 ○集合型と訪問型の支援策を組み合わせることで、対象者全員が支援を受けられることを目指す。 ○集合型では、学習支援コーディネーターを中心に大学生ボランティアが学習支援を実施。 ○訪問型では、家庭・学習支援員が個別に学習支援することで、保護者の相談対応、個々の課題解決に向けた支援を実施。

## 6 取り組んで良かったこと

○「学校の授業がよくわかり挙手の回数が増えた」、「学習の習慣が身についた」、「学習に対するやる気が出た」、「コミュニケーション能力が身についた」、「大学生と話をして将来を考えるようになった」などの子ども達の意見から成長を伺うことができる。子どもだけでなく支援する大学生ボランティアにとっても、学習の場となっている。保護者は、学習支援事業に対する信頼感や期待感が非常に強く、家庭・学習支援員と懇談したり、電話で話したりする機会も増えている。